【論文要旨】

父親の育児ニーズが高いとされる1歳6か月頃をもっつ父親の育児行動の実態と、それらの関係要因を明らかにするのを目的とした。無記名自記式質問紙を郵送し、回答を得た329人（有効回答率29.2%）を分析対象者とした。育児行動は、「あやす」、「遊び相手」、「おむつ交換」、「お風呂」、「食事の世話」、「寝かしつけ」とした。6つの育児行動は、通勤時間を含めた労働時間が「12時間未満の者」が「12時間以上の者」に比べて有意に週3回以上行っていた。「食事の世話」は、「育児休業の取得者もしくは取得希望者」、「有給休暇をとりやすい者」の方がそうでない者に比べて週3回以上行っており、「おむつ交換」は「平等的性役割分業意識である者」が「従来的性役割分業意識」に比べて、「育児講座や相談の利用がある者」が「利用しない者」に比べて有意に週3回以上行っていた。

Key words：父親、育児行動、1歳6か月頃

I．緒言

近年、わが国では、核家族化、少子化、女性の活躍推進により、育児環境が大きく変化する中、男性も主体的に子育てや家事を行う必要性が高まっている。国においては、2007年にワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）憲章の制定や、2009年に育児・介護休業法の改正を行い、男性も子育てやすい社会や父親の育児休業取得が促進されている。しかしながら、時間があれば今以上に育児参加したいと思う父親は約7割である1)ことや約3割の男性が育児休業取得を希望している2)ものの男性の育児休業取得率は、203%3)にとどまっており、父親の育児参加への意欲と実際の行動にはギャップが生じている。

父親の育児参加に関する先行研究は、主として、父親の育児参加が母親や子ども、父親自身へもたらす影響4)5)、父親の育児参加の規定要因6)7)、父親の育児状況の3つのテーマに分類される1)。父親の育児状況に関しては、父親が主体的に行いやすい育児行動は、比較的長時間と時間がかからないものが多く2)、日常的で基本的な育児行動は母親中心で、父親はあくまで補助的なものである3)との報告がある。さらに、平日に夫が食事の世話やおむつ交換を行っている場合は妻の満足度が高く4)、父親自身も平日の育児時間が長いほど自己評価が高い5)ことが報告されている。

一方、これまでの研究報告では、父親の具体的な育児行動に着目し、関係する要因を検討したものは未だ見当たらない。育児行動により実施が異なる点を考慮すると、それぞれの育児行動に関係する要因を明らかにすることは、父親の育児参加を促進する支援策を

Factors Associated with Childcare Activities of Fathers with Children Aged One and a Half Years

Aya Kitahara, Masako Sugimoto, Chisato Hayashi, Yoshie Yokoyama

1）西宮市こども支援局子育て事業部保育所意識課（受付）
2）大阪市立大学大学院看護学研究科公衆衛生看護学研究室（大学院生）
3）大阪市立大学大学院看護学研究科公衆衛生看護学研究室（准教授）
4）大阪市立大学大学院看護学研究科公衆衛生看護学研究室（教授）

別刷請求先：北原 綾 西宮市こども支援局子育て事業部保育所意識課 〒662-8567 兵庫県西宮市六潘寺町10番3号
Tel：0798-35-3054 Fax：0798-22-9107
検討するうえで重要であると考える。
そこで、2歳未満の子どもをもつ父親を対象とした研究では、身辺の世話等の育児ニーズが高く、母親の育児ストレスが最も高くなる時期であり、父親に日常的な世話行動が求められていることが示されている。そこで、本研究では、1歳6ヶ月より月児をもつ父親を対象とし、それが育児行動の実態とそれぞれの育児行動に関係する要因を明らかにすることにより、父親に対する育児支援のあり方を検討する基礎資料とすることを目的とした。

II. 方法

II. 調査期間と対象者

本研究で対象としたA市は、阪神間に位置する住宅地域である。対象者は、2012年7〜9月の1歳6ヶ月より月児健康診査対象児の父親とし、健診案内表と共に無記名自記式質問紙を郵送し、返信用封筒にて回答を得た。対象児数は1,126人で、対象児の父親331人から回答が得られ（回収率は29.4％）、多胎児をもつ父親を除く329人分析対象者とした。

II. 調査内容

父親の育児行動の項目は、国立社会保障・人口問題研究所の第4回全国家庭動向調査を参考に、「あやす」、「遊び相手」、「おむつ交換」、「お風呂」、「食事の世話」、「寝かしつけ」の6項目とした。各項目に対する回答は、実際に育児をした回数として聞き、5段階評定（週5回以上、週3〜4回、週1〜2回、月1〜3回、全くしない）にて把握した。本研究では、「週3〜4回〜週5回以上」を「週3回以上」、「全くしない〜週1〜2回」を「週3回未満」とする2値変数とした。

調査項目は、父親に関するものとして、「年齢、健康状態、職業、就労状態、通勤時間を含めた労働時間、年取休暇のとりやすさ、育児休業取得状況、育児経験、出産準備教室の参加、育児講座の受講」、他国の父親とのネットワークや情報交換の機会、性役割分業意識」とし、他国「妻の年齢、妻の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）、家族形態、児の性別と出生順位」とした。通勤時間を含めた労働時間、本研究結果の平均値を参考に「12時間未満」と「12時間以上」の2値変数とした。有給休暇のとりやすさは、4段階で把握した後、「比較的とりやすい・とりやすい（以下、とりやすい）」と「比較的とりにくい・とりにくい（以下、とりにくい）」の2値変数とした。育児休業取得については、「取得したことがあるおよび取得したけれどもなかった（以下、育児休業取得者もしくは取得希望者）」と、「取得しようと思わなかった・取得しなかった（以下、取得しなかった育児休業取得希望者）」の2値変数とした。また、先行研究を参考に、「男性は仕事、女性は育児をすべきだと思いますか（以下、性役割分業意識）」を4段階評定で把握し、「非常にそう思う・あまりそう思う」を「伝統的な役割分業意識」、「全くそう思わない・あまりそう思わない」を「平均的な役割分業意識」とする2値変数とした。

III. 分析方法

統計学的分析については、質的変数の独立性の検定にはx²検定、平均値の差の検定にはt検定を使用した。それぞれの育児行動に関与する要因を明らかにするために、各育児行動を従属変数とし、各行動が有意な関係がみられた変数（有意水準5％未満）を独立変数としたモデルを作成し、強制投入法によるロジスティック回帰分析を行った。また、父親の年齢を調整するため、年齢を連続変数で投入した。統計学的解析には、SPSSver.18.0 for Windows統計パッケージを使用した。

IV. 倫理的配慮

倫理的配慮として、A市保健所長、担当課長、ならびに対象者に依頼書で趣旨説明を行い、対象者の自由意思での回答であること、調査への協力は調査票の回答をもって同意とみなすこと、調査結果は無記名で返送し、個人が特定されないことを明記した。なお、本研究は、大阪市立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した。

III. 結果

1. 対象者の概要および育児行動の実態

表1に示すように、父親の年齢は、平均35.3士5.5歳、正社員である父親は、91.6％、通勤時間を含めた労働時間は、平均12時間24分士2時間であった。核家族世帯の父親は313人（95.4％）、共働き世帯の父親は97人（30.3％）であった。

表2は父親の育児行動の実態を示している。週3回以上している育児行動は、「あやす」が217人（67.2％）
表1 対象者の概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>年齢（歳）</th>
<th>N（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>＜30</td>
<td>49（14.9）</td>
</tr>
<tr>
<td>30～39</td>
<td>212（64.4）</td>
</tr>
<tr>
<td>40歳以</td>
<td>68（20.7）</td>
</tr>
<tr>
<td>Mean ± SD（Range）</td>
<td>35.3±5.5（22～52）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

健康状態
まあなよいもとでもよい   232（70.5）
よくない～ふつう 97（29.5）

性役割分業意識
伝統的   154（47.4）
平等的   171（52.6）

育児経験
あり   148（45.3）
なし   179（54.7）

出産準備教室の参加
あり   160（48.9）
なし   167（51.1）

育児講座や相談の利用
あり   30（9.2）
なし   294（89.8）

他の父親とのネットワーク
あり   116（35.5）
なし   207（63.5）

職業
会社員・公務員等 283（88.2）
自営業・その他 38（11.8）

就労形態
正社員   294（91.6）
非常勤・アルバイト等   27（8.4）

通勤時間を含めた労働時間
12時間未満   230（70.5）
12時間以上   92（29.5）
Mean ± SD（Range） 12時間24分±2時間分（6～17時間）

有給休暇のとりやすさ
とりやすい   208（65.6）
とりにくい   109（34.4）

育児休業取得
取得者もしくは取得希望者   104（33.3）
取得ないのとき希望する者   208（66.7）

妻の年齢（歳）
＜30   65（19.9）
30～39   230（70.3）
40歳以    32（9.8）
Mean ± SD（Range） 33.6±4.6（21～44）

妻の就労
あり   97（30.3）
（フルタイム、パート、なし） 223（69.7）

育児休業中を含む
家族形態
核家族   313（95.4）
拡大家族   15（4.6）

配偶者の性別
男性   182（55.5）
女性   146（44.5）

配偶者の出産順位
第1子   176（53.7）
第2子以降   152（46.3）

無回答は表から除外した。

表2 父親の育児行動の実態（n = 329）

<table>
<thead>
<tr>
<th>週3回以上</th>
<th>週3回未満</th>
<th>p-value</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>N（％）</td>
<td>N（％）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>あやす</td>
<td>217（67.2）</td>
<td>106（32.8）</td>
</tr>
<tr>
<td>遊び相手</td>
<td>217（66.4）</td>
<td>110（33.6）</td>
</tr>
<tr>
<td>おむつ交換</td>
<td>169（51.5）</td>
<td>159（48.5）</td>
</tr>
<tr>
<td>お風呂</td>
<td>156（47.7）</td>
<td>171（52.3）</td>
</tr>
<tr>
<td>食事の世話</td>
<td>129（39.6）</td>
<td>197（60.4）</td>
</tr>
<tr>
<td>寝かしつけ</td>
<td>77（23.6）</td>
<td>249（76.4）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

検定結果はχ²検定による。無回答は表から除外した。

2．父親の育児行動と関係する要因

表3に父親の育児行動と関係する要因を示す。まず、6つの育児行動すべての週3回以上の実施は、「通勤時間を含めた労働時間」が「12時間未満」の方が「12時間以上」に比べて有意（p<0.05）に多く、「妻の就労なし」に比べて「妻の就労あり」の方が有意（p<0.05）に多かった。次に、それぞれの要因以外で育児行動の週3回以上の実施と有意に関連した要因は、「あやす」は、「健康状態がよい」、「平等的役割分業意識」であり、「遊び相手」は、「健康状態がよい」、「有給休暇がとりやすい」であった。「おむつ交換」は、「育児講座や相談の利用あり」、「平等的役割分業意識」、「育児休業取得者もしくは取得希望者」、「児が第1子」であった。「お風呂」と「食事の世話」は、「平等的役割分業意識」、「育児休業取得者もしくは取得希望者」、「有給休暇がとりやすい」であった。「寝かしつけ」は、「平等的役割分業意識」、「育児休業取得者もしくは取得希望者」、「児が男児」であった。なお、育児行動に有意な関係がなかった要因は、職業、就労形態、家族形態、育児経験、出産準備教室の参加の有無、他者の父親とのネットワークや情報交換の機会の有無であった。

3．父親の育児行動と関係する要因の分析結果

表4に、各育児行動に関する要因をロジスティック回帰分析した結果を示す。なお、各変数間の相関数はいずれも0.4以下であった。6つの育児行動すべてにおいて、通勤時間を含めた労働時間が12時間以上者の要因に基づくと、12時間未満の者は有意に週3回以上行っており、「あやす」がオッズ比3.5（95% CI: 1.81～6.66, p<0.001）、「遊び相手」がオッズ比6.1（95% CI: 2.86～12.88, p<0.001）、「おむつ交換」がオッズ比1.9（95% CI: 1.11～3.29, p<0.05）、「お風呂」がオッズ比2.8（95% CI: 1.74～4.57, p<0.001）に有意に高かった。
表3 父親の育児行動と関係する要因  

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 父親の年齢 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Mean ± SD | 35.0±5.5 | 35.8±5.5 | n.s. | 35.4±5.7 | 35.1±5.1 | n.s. | 35.5±5.4 | 35.0±5.7 | n.s. |
| 父親の健康状態 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ままままよい～とてもよい | 161 (70.7) | 67 (29.3) | p<0.05 | 162 (69.8) | 70 (30.2) | p<0.05 | 125 (53.9) | 107 (46.1) | n.s. |
| ふつう～よくない | 56 (28.9) | 39 (41.1) | n.s. | 55 (79.2) | 40 (21.8) | p<0.05 | 44 (45.8) | 52 (54.2) | n.s. |
| 育児支援の利用 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| あり | 196 (77.8) | 93 (32.2) | n.s. | 196 (69.8) | 97 (31.1) | n.s. | 144 (49.0) | 150 (51.0) | n.s. |
| なし |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 伝統的 | 93 (61.6) | 58 (38.4) | p<0.05 | 96 (62.3) | 58 (37.7) | n.s. | 63 (40.9) | 91 (59.1) | p<0.01 |
| 仏教的 | 121 (72.0) | 47 (28.0) | n.s. | 118 (69.8) | 51 (30.2) | n.s. | 102 (60.0) | 68 (40.0) | n.s. |
| 通勤時間を含めた労働時間 | 12時間以上 | 128 (59.8) | 86 (40.2) | p<0.01 | 123 (56.2) | 96 (43.8) | p<0.001 | 97 (44.3) | 122 (55.7) | p<0.01 |
| 12時間未満 | 77 (83.7) | 15 (16.3) | n.s. | 81 (89.0) | 10 (11.0) | n.s. | 57 (62.0) | 35 (38.0) | n.s. |
| 有給休暇のとりやすさ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| とりあえず～比較的とりやすく | 143 (70.1) | 61 (29.9) | n.s. | 148 (71.8) | 58 (28.2) | p<0.01 | 111 (53.6) | 96 (46.4) | n.s. |
| とりあえず～比較的とりにくい | 113 (61.1) | 42 (38.9) | n.s. | 60 (55.0) | 49 (45.0) | n.s. | 49 (45.0) | 60 (55.0) | n.s. |
| 有給休暇の取得 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 取得者もしくは取得希望者 | 71 (69.6) | 31 (30.4) | n.s. | 71 (69.6) | 31 (30.4) | n.s. | 64 (62.1) | 39 (37.9) | p<0.05 |
| 取得者もしくは取得希望者 | 139 (67.8) | 66 (32.2) | n.s. | 134 (64.4) | 74 (35.6) | n.s. | 96 (46.2) | 112 (53.8) | n.s. |
| 母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む） |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| あり | 74 (77.1) | 22 (22.9) | p<0.05 | 72 (75.0) | 24 (25.0) | p<0.05 | 61 (62.9) | 36 (37.1) | p<0.01 |
| なし | 137 (62.8) | 81 (37.2) | n.s. | 140 (63.1) | 82 (36.9) | n.s. | 103 (46.4) | 119 (53.6) | n.s. |
| 對象児の性別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 男児 | 122 (67.4) | 59 (32.6) | n.s. | 120 (66.3) | 61 (33.7) | n.s. | 95 (52.5) | 86 (47.5) | n.s. |
| 女児 | 94 (66.7) | 47 (33.3) | n.s. | 96 (66.2) | 49 (33.8) | n.s. | 74 (50.7) | 72 (49.3) | n.s. |
| 出生順位 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 第1子 | 124 (71.3) | 50 (28.7) | n.s. | 122 (69.7) | 53 (30.3) | n.s. | 104 (59.1) | 72 (40.9) | p<0.01 |
| 第2子以降 | 92 (62.2) | 56 (37.8) | n.s. | 94 (62.3) | 57 (37.7) | n.s. | 65 (43.0) | 86 (57.0) | n.s. |
| 家族形態 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 核家族 | 206 (66.9) | 102 (33.1) | n.s. | 207 (66.6) | 104 (33.4) | n.s. | 163 (52.2) | 149 (47.8) | n.s. |
| 拡大家族 | 10 (71.4) | 4 (28.6) | n.s. | 9 (60.0) | 6 (40.0) | n.s. | 6 (40.0) | 9 (60.0) | n.s. |

（n = 329）

検定結果はで検定による。無回答は表から除外した。
表4 父親の育児行動と関係する要因の分析結果（ロジスティック回帰分析による）

<table>
<thead>
<tr>
<th>要因</th>
<th>オッズ比</th>
<th>95%信頼区間</th>
<th>p-value</th>
<th>要因</th>
<th>オッズ比</th>
<th>95%信頼区間</th>
<th>p-value</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>3.48</td>
<td>1.81～6.66</td>
<td>p&lt;0.001</td>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>6.06</td>
<td>2.86～12.88</td>
<td>p&lt;0.001</td>
<td>有給休暇</td>
<td>とりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>とりやすい</td>
<td>1.75</td>
<td>1.02～2.99</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td>お風呂</td>
<td>おりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>おりやすい</td>
<td>1.75</td>
<td>1.02～2.99</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td>お風呂</td>
<td>おりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>おりやすい</td>
<td>1.75</td>
<td>1.02～2.99</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>おむつ交換</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>1.91</td>
<td>1.11～3.29</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>3.70</td>
<td>2.10～6.53</td>
<td>p&lt;0.001</td>
<td>母親の就労</td>
<td>なし</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有給休暇</td>
<td>とりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>とりやすい</td>
<td>1.97</td>
<td>1.13～3.46</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td>有給休暇</td>
<td>とりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>とりやすい</td>
<td>1.97</td>
<td>1.13～3.46</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>食事の世話</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>2.82</td>
<td>1.62～4.90</td>
<td>p&lt;0.001</td>
<td>通勤時間を含めた労働時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間以上</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12時間未満</td>
<td>3.05</td>
<td>1.66～5.61</td>
<td>p&lt;0.001</td>
<td>母親の就労</td>
<td>なし</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有給休暇</td>
<td>とりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>とりやすい</td>
<td>2.03</td>
<td>1.09～3.75</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td>有給休暇</td>
<td>とりにくい</td>
<td>1.00</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>とりやすい</td>
<td>2.03</td>
<td>1.09～3.75</td>
<td>p&lt;0.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

「あやす」：独立変数は、父親の健康状態、役割分業意識、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

「遊び相手」：独立変数は、父親の健康状態、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、有給休暇のとりやすさの有無、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

「おむつ交換」：独立変数は、育児講座や相談利用の有無、役割分業意識、出生順位、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、育児休業取得者もしくは取得希望者と取得なかっ、取得希望がの者、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

「お風呂」：独立変数は、役割分業意識、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、有給休暇のとりやすさの有無、育児休業取得者もしくは取得希望者と取得なかっ、取得希望がの者、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

「食事の世話」：独立変数は、役割分業意識、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、有給休暇のとりやすさの有無、育児休業取得者もしくは取得希望者と取得なかっ、取得希望がの者、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

「寝かしつけ」：独立変数は、対象児の性別、役割分業意識、母親の就労（フルタイム、パート、育児休業中を含む）の有無、育児休業取得者もしくは取得希望者と取得なかっ、取得希望がの者、通勤時間を含めた労働時間を投入した。

上記の分析について、父親の年齢を連続変数で投入して調整を行った。また、有意差が認められなかった要因は表から除外した。
ズ比3.7（95％CI：2.10～6.53，p < 0.001）、「食事の世話」がオッズ比2.8（95％CI：1.62～4.90，p < 0.001）、「寝かしつけ」がオッズ比3.1（95％CI：1.66～5.61，p < 0.001）であった。

通時時間を含めた労働時間のほか、有意差のある要因を各育児行動の週3回未満に対する週3回以上の実施の比を見ると、「遊び相手」は、有給休暇をとりやすいと回答した父親が「有給休暇をとりにくい」と回答した父親と比べて、オッズ比1.8（95％CI：1.02～2.99，p < 0.05）であった。「おむつ交換」は、「平均的役割分担意識」を持つ父親が「平均的役割分担意識」を持つ父親に比べて、オッズ比2.0（95％CI：1.17～3.24，p < 0.05）、「育児講座や相談利用」であった父親が「利用なし」と回答した父親と比べて、オッズ比2.6（95％CI：1.07～6.39，p < 0.05）、「第1子」の父親が「第2子以降」の父親に比べて、オッズ比1.8（95％CI：1.08～3.03，p < 0.05）であった。「お風呂」、「妻の就労あり」と回答した父親が「就労なし」と回答した父親に比べて、オッズ比2.0（95％CI：1.13～3.46，p < 0.05）であった。「食事の世話」は、父親が「育児休業取得者もしくは取得希望者」であることが、「取得せずに取得希望なしの者」であることに比べて、オッズ比2.0（95％CI：1.17～3.49，p < 0.05）、「有給休暇をとりやすい」と回答した父親が「有給休暇をとりにくい」と回答した父親に比べて、オッズ比2.1（95％CI：1.16～3.63，p < 0.05）であった。「寝かしつけ」は、妻の就労あり」と回答した父親が「就労なし」と回答した父親に比べて、オッズ比2.0（95％CI：1.09～3.75，p < 0.05）、「対象児が男児」ともも父親が、「女児」ともも父親に比べてオッズ比2.1（95％CI：1.11～3.92，p < 0.05）であった。

IV. 考察

対象者の家族構成は、6つの育児行動において有意な関係はなかったことから、核家族であることと父親の育児行動は関係しないと考え、すべての父親を分析対象とした。

本研究は、横断的調査であるため、父親の育児行動と関係する要因との因果関係について論じることはできないが、6つのすべての育児行動を「通勤時間を含めた労働時間」が12時間未満である方が12時間以上に比べて有意に週3回以上行っていた。先行研究[10,13,19]と同様に、日常的な父親の育児行動を促すためには就労以外の時間を保証が重要であると考えられる。

「遊び相手」と「食事の世話」は有給休暇をとりやすいの方が有意に週3回以上行っていたことから、有給休暇がとりやすい職場制度や父親の育児参加を認め合う雰囲気であることや、父親身が子どもの就寝前に帰宅し、共に食事や遊びの時間を積極的に行っているとも推察される。さらに、「食事の世話」は、育児休業取得者もしくは取得希望者の方が有意に週3回以上行っていたことから、育児休業取得より子どもに合わせた食事のスキルを獲得していることや、育児休業取得を希望する父親の育児参加意欲の高さが実際の行動に反映しているとも推察される。今後は、父親の育児参加を促進する企業の取り組みや父親の仕事・家庭への比重と、育児行動に関与の関係を明らかにすることが必要であろう。

一方、先行研究[20]と同様に、子ども世話の中でも不快感を伴うとされる「おむつ交換」は、平均的役割分担意識を持つ父親の方が有意に週3回以上行っていた。先行研究より平均的役割分担意識を持つ父親の方が、育児家事実施意欲が高い[20]と示されている。また、おむつ交換は育児講座や相談を利用したことがある方が有意に週3回以上行っていたり、育児の学習会に参加した父親は育児分担していることが報告[20]もあることからも、育児への参加意欲の高さが、週3回以上おむつ交換を行うことに影響していると考えられる。今後、子育て支援の一環として、子どもとのふれあいが楽しいと感じるような親子遊びの場や、夫婦でわが子の成長発達、仕事と家庭・育児への価値観を共有できるよう場を設定することも必要であろう。加えて、おむつ交換は、児が第1子である方が有意に週3回以上行っていたことから、第1子誕生により父親役割意識が高まったことが影響しているとも推察される。

「お風呂」と「寝かしつけ」は、共働き世帯の父親の方が有意に週3回以上行っていたことから、夫婦が仕事から帰宅した後は、妻が食事の準備や夜の付きをして、父親がお風呂に入ったり寝かしつけたりするなど役割分担をしていることが推察される。「寝かしつけ」は、児が男児である方が週3回以上有意に行っていたが、先行研究においても子どもの性別と父親の育児行動に関する報告は数少ないことから、さらに調査検討が必要であろう。
本研究の限界として、回収率は29.4％と低く、回答者は、母集団の中でも育児に関心が高い集団に偏っている可能性がある。また、実際の労働時間と育児行動との関係を明らかにすることはできなかった。

V. 結 語

本研究結果より、6つの家族の育児行動のすべてにおいて、通勤時間を含めた労働時間に有意差が認められたことから、3回以上の家族の育児行動を推進するためには、長期労働の是正や、社会経済状況を含めた多様な価値観を認め合う職場環境への取り組みの充実と同時に、ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発を男女問わず子どもから幅広い年代層に向けて一層強化していくことが必要である。さらに、出産前に、夫婦が互いのキャリアプランや将来の目標を語り合う機会を設定し、家族・育児の負担を共有する必要性に気づき、父親になる男性に主体的に育児に関わろうという意識を高める取り組みも必要であろう。

本研究の一部は、文部科学省科学研究費補助金（課題番号：26671042）の助成を受けて実施した。

本研究における利益相反は存在しない。

文 献

1) 柳原薰子. 父親の育児参加の実態. 天使大学紀要 2007；7：47-56.

2) 厚生労働省. 今後の仕事と家庭の両立支援に関する調査. 2008.5.（http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/05/h0520-1.html, 2013.11.2）


4) 山口（久野）孝子, 堀田法子. 6ヶ月児をもつ母親の精神状態に関する研究（第2報）- 一般役割と精神状態との関連から- 小児保健研究 2005: 64（1）: 11-17.

5) 三上知美, 掛谷益子. 母親の育児ストレスと父親の育児参加に関する研究. インターナショナル Nursing Care Research 2011；10（1）: 75-83.


7) 染木恵子, 若松素子. 「親となる」ことによる人格発

達 生産発達的視点から親を研究する試み. 発達心理学研究 1994；5（1）: 72-83.


13) 梶原佳子, 松原由美. 父親の育児行動について（1）. 九州保健福祉大学紀要 2007; 8: 89-94.

14) 野原正寛, 大寺真之, 大橋一慶, 吉. 北海道における東の育児参加の実態- 6か月育児行動に関する観察的研究. 小児保健研究 1997: 56（6）: 794-800.


21) 塩田真由美, 石田貞代, 糸原結花. 出産後早期にお
Summary

Objectives: The purpose of this survey was to study the frequency and proportion of six childcare activities performed by fathers with a child aged one and a half years.

Methods: The survey was mailed to the study participants. The six childcare activities surveyed were “Dandling”, “Playing”, “Changing diapers”, “Bathing the child”, “Helping with eating” and “Putting the child to sleep”.

Results: The sample comprised 1,126 fathers, each with a child aged one and a half years. Of these, the data obtained from 329 fathers, excluding two fathers of twins, were analyzed. “The six childcare activities” were significantly undertook three or more times per week in the working hours including commute time of the fewer than twelve hours. “Helping with eating” were significantly undertook three or more times per week in the actual or desired childcare leave and the tendency to take paid leave from work. “Changing diapers” were significantly undertook three or more times per week in the egalitarian attitudes toward gender roles and the parenting course taken by the participants or consultation regarding childcare issues.

Conclusion: This study revealed a significant association between working hours including commute time and fathers’ participation in the six childcare activities surveyed. This indicates the importance of the working conditions conducive to the fathers’ childcare activities the raising awareness of work-life balance.

Key words: father, childcare, child aged one and a half years